

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272100686		
法人名	社会福祉法人 つがる市社会福祉協議会		
事業所名	グループホームゆうあいの里		
所在地	〒038-3302 青森県つがる市豊富町屏風山1-377		
自己評価作成日	平成30年10月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成30年11月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームゆうあいの里は特別養護老人ホーム・認知症通所介護事業所と併設されており、利用者同士の交流や緊急時の連携が図られています。近隣には市民公園・認定こども園・物産館等があり、利用者は市民公園で遊ぶ子供たちを眺め癒されたり、散歩や買物に出かけることができ自然環境に恵まれています。また、地元の老人クラブや各種団体の慰問や行事への招待もあり、地域交流が盛んに行われているため、地域の一員としての繋がりをもち有意義に過ごせています。嘱託医による回診や歯科医の往診により健康面でも不安なく生活できるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

グループホームは市民公園や物産館がすぐ近くにあり、地区住民と共に利用することが出来、知人との再会の場面も多くある。利用者は地域の一員であるという事を目的とした様々な取組みがされており、地域住民の協力体制の確立へとつながっている。敷地内に特別養護老人ホームと認知症デイサービスセンターが併設され、夜間や災害などで緊急事態が発生しても、連携体制が確保されており、利用者も職員も安心して過ごせている。面会や差し入れ等、家族の積極的な協力もあり、利用者の孤立感を感じられない。職員間の伝達研修では知り得た知識を相互に理解できており、全職員の資質向上につながっている。サービス提供時の姿勢も利用者一人ひとりの状況を情報共有しており、その人らしい生活ができるような支援が展開されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が	公益社団法人青森県老人福祉協会			
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が地域の一員として自分らしく暮らせるように、全職員が理念を共有し職員証の裏に入れていつも見るようにし、職員会議の時など唱和し再確認し毎日のケアに繋がっています。	開設時の理念を基にし、地域の一員として支え合いながらその人らしく生活することを目指して、会議の際に全職員で唱和したり、いつでも理念を確認できるように、身分証に入れて携帯し毎日のケアにつなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りや芸能大会等に参加し交流を持ち、また認定こども園の園児や地域の方々がホームに来て歌や踊りを披露し交流を行い、地域の一員としての役割を重視しています。	地域の物産館での祭りに参加し、地域の人との交流もある。町内会はないが、有事の際には協力していただける協定書もあり、地域の祭りの際は利用者が楽しめるように寄ってもらうなど、普段から密着した関わりがある。中学生の職場体験や、園児の訪問等、子供との新鮮な関わりもでき、利用者の楽しみとなっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	面会時や行事等の時、家族からの質問や相談を受け助言を行っています。また、気軽に相談できるような雰囲気作りに心がけています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に開催し、活動状況を報告し意見や助言を頂き、ホームの取り組みについて話し合いサービスの向上に繋がっています。	隔月で開催され、欠席者へは会議記録を渡して把握してもらい意見を頂いている。家族会の総会でも意見を出してもらいサービスの向上につなげている。会議後はグループホーム内を視てもらい、利用者の作品等についても意見を聞き活動に活かしていくことも考えている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者にその都度相談したり、2カ月に1回の地域ケア会議や運営推進会議で意見や助言を頂き、サービスの向上に繋がっています。	制度や運営についての疑問点や相談は日常的に行われており、地域ケア会議では各地区の情報交換ができている。民生委員児童協議会の研修や視察も受け入れ、交流が取られている。有事の際の協力の申し出もあり、活発な意見交換が出来ている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者に不穏な状況が出現した時は、その行動を止めるのではなく、受容し行動を共にし問題が解決して落ち着きを取り戻せるように支援方法を検討しケアを実践しています。また、身体拘束廃止宣言を掲げ、研修に参加したりミーティング等で話し合いを持ち理解を図っています。	廊下には「身体拘束廃止宣言」を掲げ、研修やミーティングで何度も話し合う機会を持ち、理解を図っている。玄関センサーにはやさしい音楽が使用されるなど、マニュアルだけではない取り組みもされ、職員は声のかけ方を注意し合うなど職員間の意識も高い。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的・心理的虐待がないように、研修に参加した内容を全職員に伝達し理解を深め、言葉遣い等に気をつけ、お互いに声をかけ注意を払っています。利用者や家族が気軽に相談できるような雰囲気作りに心がけています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修等を通し、制度の理解と知識を得ています。また、法人本部で日常生活自立支援事業の基幹的社協となっており、専門員も配置されているため、いつでも支援できる体制ができています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書等で十分な説明を行い、利用者や家族が理解し納得した上で契約の締結を行っています。その後も不明な事などに関しては随時説明し家族との良好な関係作りを図っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時は、利用者の日頃の様子を報告しながらコミュニケーションを図り、意見や要望を気軽に話せる雰囲気作りに心がけています。問題発生時には管理者と話し合いを持ち、運営に反映できるように努めています。	面会や状況報告の電話連絡の折に意見や要望を聞き取り、支援姿勢や計画に反映されている。朝の申し送りを活用して、家族意見や問題のあった時は、すぐに管理者、職員で話し合い、できるだけ早く対応できるように取り組んでいる。入居契約時にはグループホームの苦情受付担当者や外部機関の受付窓口について説明されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は朝の申し送りには出席し、職員の思いや提案等を聞き、日々の業務がスムーズに行なえるように助言を行い職員の意見を反映させています。	入居判定会議では職員の意見が考慮され、現利用者の状況や緊急性を含めて検討し決定されている。日常的にも日々の業務に関して職員の意見や提案を聞く機会を設け、意見を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	連続する勤務の場合は心身に無理のかからない程度に勤務を組み、職員の希望した日の休みや有給が取れるように努力しています。やりがいや向上心が持てるように職員の意見を業務に取り入れ職場環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の介護技術・得手不得手を理解しており、法人内外の研修は積極的に受講させています。また、伝達研修で全職員に情報を共有し実践に生かすよう努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協会の総会や研修・祭り等で交流を行い、サービスの質の向上に繋げています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の生活が大きく変わらないように生活の習慣や不安に感じている事や要望を受け止め、職員が本人に受け入れられ安心して生活できるような関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話を傾聴しながら、気軽に相談しやすいような雰囲気作りに努め、要望や不安に感じることを解決できるような説明や話し合いを行い、安心してサービスを利用できるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネや、併設の特養や通所介護事業所からの情報を共有しながら、必要とする支援を見極めています。利用前にホームの見学をしていただいたり、職員が関わりを多く持ち、馴染んでいただけるような工夫をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	夏場の畑作りや調理方法等では利用者から助言をいただいて大変助かっています。毎日の生活の中では、無理のかからない程度に食事の下準備や食器拭き洗濯物たたみ等を職員と一緒にを行い、良好な関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事等に参加していただいたり、広報の発行や電話、面会時には日頃の様子がわかるように説明しています。短時間の面会でも会話する時間を少しでも設けたり、受診時等には協力をいただいたり、良好な関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近くの物産館や近くの店等では顔見知りの方々に会う機会があり、馴染みの方とおしゃべりなどの交流ができるよう支援しています。	入居時にこれまでの馴染みの人との関係性を家族に聞き取り、美容院へ通う方やお盆、正月には自宅へ帰る方もいる。遠方の家族が居室に宿泊し、一緒に布団を並べて寝る等、宿泊者に対する環境整備や対応も図られ、利用者の楽しみとなり良い関係の継続へと繋がっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人、合わない人の把握をしています。毎日の話口調や表情を見て、職員はその日の心身状態を見極め、利用者同士が穏やかに過ごせるように支援しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設する特養に入所となりし、グループホームを退所となった利用者や家族とは、お互い声掛けや挨拶をしたりと交流が続いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から利用者の意向や希望を聞き出し、思いが達成できるように全職員で話し合っています。また、意志の疎通が困難な方は表情や行動から意向や希望を把握し家族の方々の意見を参考にしながら検討しています。	日々の対応の中から利用者の思いを引き出すとともに、行動を細かく観察して日々の変化を職員間で話し合い業務に反映させている。新規の利用者受入の際は、自宅を訪問して確認した情報を職員間で共有し、それを基に意思疎通の困難な方の思いの汲み取りにもつなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族より詳しく情報をいただきたき把握に努めています。また、職員は地元の者が多く、利用者の生活歴や生活環境を把握しており、わずかな情報をも収集するよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの一日の生活リズムを把握しています。毎日の心身状態等は、朝の申し送り等で話し合い、わずかな変化や可能性をも見つけ出せるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の思いや家族の意向を聞き、モニタリングやカンファレンスを行っています。本人の状態変化や家族の要望の変化が生じた時は、介護計画の見直しを行っています。	計画作成時には家族の意向や要望を聞き取り、ケアの方向性を決める際にも、職員間で話し合われている。多くの関わる人からの情報収集により、介護計画が作成され、認知症状の変化が把握でき、家族の意向の変化の際にもすぐに対応できている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の業務日誌や申し送りノートには職員の気づきや利用者の状態の変化やエピソード、家族からの要望等を記録し職員間で情報を共有しながら実践したり介護計画の見直しをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の緊急な宿泊や訪問などには柔軟な対応やサービスを行っています。また緊急時、職員不足の場合には併設の特養より看護師、介護職員の支援体制がとられています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して暮らせるように、近くにある駐在所や地元の消防団に協力体制ができています。又地域の町内会とも防災に関する協定書を締結しており利用者の安全を支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所には協力医がおり予防接種や、1／wの回診、体調不良時等は診ていただいています。また本人や家族が希望される専門医への受診も支援しています。	協力医に診てもらいが、家族の希望時や必要時は専門医への受診ができています。受診時の家族の付き添いの協力も得られ、かかりつけの専門医への受診の継続につながっている。受診結果については都度家族に報告し、専門医受診の際は家族に状況説明し同意をいただいている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の特養看護師に相談し、助言をいただきながら、日々の健康管理、病気の早期発見に取り組んでいます。また緊急時にはすぐ駆けつけてくれる等の連携が取れています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中には、家族との連携を密に行い回復状況等の情報交換に努めています。また病院関係者との情報交換も積極的に行ない早期退院に向けて支援しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医と本人、家族、職員、特養看護師など関係者と話し合い、本人や家族の希望に添うような支援をしています。又、本人家族が納得安心して終末期を迎えられるように随時意思確認をしながら取り組んでいます。	看取り介護は行っていないが、入居時に重度化した場合の説明をして家族の意向も確認している。重度化に伴う医療行為は対応が困難なため、病院の連携室との調整も行い、これまでに家族の希望で看取った方もいる。医療機関との連携も十分とられており、今後はチームで支援していくためにも看取りの指針を明確にしていく方向である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行なっていないが、申し送り等で実践を想定した話題でシュミレーションしたり、事故発生時や緊急時の対応についてのマニュアルを作成しており周知徹底しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は併設の特養と合同で年2回実施し、避難経路の確認をしています。地元町会とも防災に関する協定書を取り交わしており、緊急時の協力体制を築いています。避難訓練時にも参加いただいき協力を得ています。また非常食材も3日分備蓄して災害時に供えています。	定期的な総合訓練の他、グループホーム独自での訓練も行っている。地域住民と協定書を交わし、参加や協力が見られている。地域の避難所としての役割もあり、他事業所への災害支援も行っている。また、玄関の開錠時間については、不審者対策の為に会議や研修で検討を重ねている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の尊厳を無視した対応をしないように、自己決定しやすく、また親しみやすくわかりやすい言葉かけに努めています。職員は個人情報や守秘義務について十分理解しています。	利用者の尊厳を重視した対応をするように、職員が入職した際に指導している。記録物は、個人情報、守秘義務であることを職員は十分理解しており、持ち帰りはしないことを職員間でも注意し合っている。広報誌等の写真掲載については家族に説明し同意を得るとともに、個人が特定できないような工夫がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は日常生活の中で利用者個々の希望を常に確認し、毎日のミーティングで話し合い職員の意見を押し付けることなく本人が自分で決める場面をつくっています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気持ちを尊重し本人が発しているサインを読み取り本人のペースに合わせた支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1/月で、理容ボランティアの訪問があり、希望によりカットや顔そりをしていただいています。また、本人の好む色やデザインの衣類でその人らしいおしゃれが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの菜園で自分達が収穫した野菜や近所の物産館で買った季節の野菜を使用し利用者が好む献立で調理したり、野菜や山菜の皮むきや食器洗いや食器拭きを一緒に行なっています。また職員は一緒にテーブルで食事をしています。	菜園プランターで、野菜の苗を買う所から利用者と一緒にいき、食卓に上がるまで楽しんでいる。食前には職員の口腔体操の誘導や、職員が同じ食卓を囲むことで会話も弾み、楽しい雰囲気での食事がされている。食器の片付けも、役割として積極的に行っており、できる事の自信へとつながっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の好みや状況を把握し、食事量や食事形態も個々に合わせて摂取できるよう対応しています。栄養バランスは特養の栄養士の意見も参考にしています。水分量も毎日記録し脱水症状にならないように注意しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、起床後就寝前の口腔ケアの声がけ見守り、介助を個々の状況に合わせて支援し口腔内の清潔に努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	毎日個々の排泄チェックを行い、尿意のない利用者にも時間をみて尊厳を損なわないように声がけで排泄を促し、失禁予防に努めています。	個別の排泄チェック表でパターンを把握するとともに、行動観察により、さりげないトイレ誘導がされているため失禁が少なく、夜間も全員トイレを使用するなど、自立に向けた取り組みがなされている。日報にも記録することで、尿量、回数、失禁状況の把握もでき、家族への報告、連絡の際も情報共有できている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄チェックにて排泄パターンを把握し、便秘気味の方には水分補給や乳製品、繊維質の多い食材を提供したり運動を取り入れるなど個々に対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	仲の良い利用者同士が一緒に入りたい場合やゆっくり浸かりたい等、利用者のその日の希望を取り入れ入浴の支援をしています。	個別の入浴であるが、仲の良い利用者が一緒に入ったり、入浴日以外でも、希望時に入浴でき、重度者に対してはマットを敷いての臥位で入浴する方もおり、臨機応変に対応できている。入浴日以外には足浴が行われており、利用者も楽しみにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調や表情を考慮しながら日中の活動を促し、一人ひとりの生活ペースで自由に居室で休んだり入浴や足浴でリラクゼーション効果で気持ちよく眠れるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の効能や副作用等の説明書をファイル保存し全職員にわかるようにしています。また処方に変更があった場合は日報や申し送りノートに記入し周知徹底しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや洗濯物干し、洗濯物たたみ、調理の下準備、野菜の収穫等、個々に合った役割を無理のないようにお願いし、経験や知恵を発揮できるようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりのその日の気分に合わせて買物や散歩に出かけています。また地域の祭りに参加したり、近隣の施設の祭りに招待されるため、外出し交流を楽しんでいます。そして、家族と一緒に大型スーパーへの買物外出を恒例行事として支援しています。	近隣に物産館があり、日常的に買い物に出かけたり、催しものや、お祭りの開催時には全利用者で参加し楽しんでいる。地域の祭り見物では地域住民との交流の場ともなっている。家族と一緒に大型スーパーへ出かけることも大きな楽しみであり定期的に実施されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を自己管理されている方は、お金を数えたり、いつも身につけているという安心感を持っています。また、外出した際はおやつの他に日用品等の購入を見守り支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方にいる家族からの手紙や電話は随時受け付け対応しています。利用者からの希望で電話をしたい時に電話できるように支援を行なっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い共有空間を整えるため換気や空間に注意しています。ストレスとならないような光や音を取り入れ生活感や季節感を感じていただけるような飾りや花や掲示物を展示するなど工夫しています。	ホールの大きな窓からは、周辺を囲む木々が良く見え、公園の中にいるような環境で落ち着く雰囲気である。園内には季節を感じる飾りつけが多く、廊下も広いので、明るく解放感がある。食後のテーブルはさりげなくアルコールティッシュで消毒され清潔感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の皆さんの状態変化や利用者同士の関係性に配慮しながら所々に椅子を置き、仲間と談笑したり一人で過ごしたりと、自由に過ごせる居場所づくりの工夫をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の居室には利用者が安らげるよう自宅で使っていた馴染みの物など自由に持ち込んでいただけるよう家族と相談しながら本人が落ち着いて過ごせるように工夫しています。	自宅とグループホームの生活に差がつかないよう、入居時に自宅での生活環境を確認するほか、家族から家での生活状況を聞き取り、ベッドの向きや位置も利用者の個性に合わせて配置されている。また、状況の変化により、その都度利用者が安心して暮らせるように変更している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は全てバリアフリーとなっており、身体機能の状態に合わせ、歩行しています。また利用者の認識の違いや判断ミスを防ぐため、居室やトイレに目印を付け自立した生活が送れるように工夫しています。		